

| | | | | |
|---------|----------------------------|-------|------|----------------|
| クラスター | 病理・病態系クラスター | | | |
| 授業科目名 | 基礎腫瘍学・実習 | | | |
| 担当者名 | 責任者 | 大森 泰文 | 分担者 | 田中 正光 |
| 単位数 | 1単位(選択) | | 配当年次 | 1, 2年次 |
| 授業形態 | 講義 | | 実施場所 | 授業計画の〔実施場所〕を参照 |
| 開講期間 | 2024年4月～2024年9月(日程の詳細は応相談) | | | |
| 開講曜日・時間 | 科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します | | | |

授業の概要・到達目標

授業の目的: がんの成り立ちを知り, 他の正常細胞との相互作用ががんの進展にどのように関与するのかを学ぶことを目的とする。
 授業の到達目標: がんの成り立ち, 細胞間相互作用とがんの進展を説明できることを目標とする。

授業の概要:

1. がん細胞の細胞生物学的特徴とその分子基盤, 遺伝子とがん, 老化とがん細胞, 発がんとがん幹細胞などについての概説
2. 肝細胞癌, 胆嚢癌, 胆道癌の発生とその分子メカニズムについて, 分子病理学的な観点からの概説
3. ギャップ結合を含めた細胞間接着分子は細胞同士の接着に加えて, 細胞の形態変化や遊走などのがん細胞の機能にも関与している。これらに関する最新の知見
4. がん細胞は周囲の線維芽細胞やマクロファージなどの正常間質細胞との相互作用を介してその性質を変化させる。これらに関する最新の知見

| | 講義題目 (講義内容) | 担当教員 | 講座名 〔実施場所〕 |
|---|----------------|-------|----------------------------|
| 1 | がんの細胞生物学1 | 大森 泰文 | 分子病態学・ 腫瘍病態学 〔講座研究室〕 |
| 2 | がんの細胞生物学2 | 大森 泰文 | |
| 3 | がんの細胞生物学3 | 大森 泰文 | |
| 4 | 肝・胆道系腫瘍の分子病理学 | 大森 泰文 | |
| 5 | がんと間質細胞の相互作用 | 田中 正光 | 分子生化学 〔講座研究室〕 |
| 6 | 細胞接着分子とがん1 | 大森 泰文 | 分子病態学・ 腫瘍病態学 〔講座研究室〕 |
| 7 | 細胞接着分子とがん2 | 大森 泰文 | |
| 8 | がん幹細胞を制御する因子 | 大森 泰文 | |
| | | | |
| | | | |

授業形態および成績の評価方法・基準

研究室での講義30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と提出したレポートの内容を考慮して行う。

問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)

大森 泰文, yasu@med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。

教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。

自学自習における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。